

## はじめに

本調査は厚岸町の別寒辺牛湿原の周辺に存在する森林地帯を対象とした。この森林は、天然林が広がっていたが、開拓の火入れによる失火等のため、原野が広がり放置されていた。その後、産業の向上を目的に原野に森林を作る目的で「パイロットフォレスト」と命名され森林が造成され荒れ地を森林に再生したのであるが、このパイロットフォレストには多くの作業道・林道が迷路のように入り組んでおり、人間活動に伴う外来種の侵入が危惧されたため、イネ科植物や移入植物の状況について調査した。

## 結果

その結果、確認できたイネ科植物はヌカボ、ヤマヌカボ、オオスズメノテッポウ、コウボウ、ヌマガヤ、ヒメノガリヤス、チシマガリヤス、イワノガリヤス、カモガヤ、コメガヤ、タツノヒゲ、クサヨシ、スズメノカタビラ、ナガハグサ、オオクマザサ、ミヤコザサ、ヒロハノウシノケグサの 17 種である。この内、外来種はオオスズメノテッポウ、カモガヤ、クサヨシ、ナガハグサ、ヒロハノウシノケグサの 5 種であった。ヌカボとコメガヤは初記録となる。また、イネ科植物の移入種は生育箇所も少なく、比較的駆除も容易な状況であることが分かった。

一方、移入植物として多くの種数が確認出来たキク科植物では、森林地帯に広い範囲で定着が見られ、既存の在来植物の保全のために一刻も早い駆除活動が必要である。移入種について、今後は森林地帯のみならず、市街地での状況把握も必要であろう。また、新たに厚岸町内に生育することが分かった植物種が 31 種見つかったが、保全すべき在来植物の個体数は、施業を行っている森林地帯では少ないように思われる。リスト上の種数はあっても、個体数の減少は、生態系ピラミッドの底辺を狭めることになるため、この地域全体の生物多様性を現象に繋がる。よって、既存の報告を見直すための植物相調査や、今後の保全状況の基礎データとなる植生調査などの情報をもとに、個体数の増大が必要であることが示唆された。

## 今後の移入植物の対策について

移入植物の駆除には多大な労力を必要とするため、人が必要であり、かつクマ被害の恐れ等もあることから、組織的な駆除作業が必要である。一方で、市街でみられるカモガヤやヨモギなどに代表される移入植物が、花粉症の原因となるなど身近な生活環境に影響を及ぼしていることが懸念されるので、花粉症対策として市内の道路脇に生育する移入植物を駆除する傍らで、市民ボランティア等によって、道路脇に適切な種類を選定した上でガーデニングを施し、都市景観にも配慮しつつ、野外で体を動かし心身の健康の増強にも力を入れたい。